

ミャンマーでの事業運営を考えていますが、どのような「外部環境リスク」があるのでしょうか。

ミャンマーへ進出した中小企業が、現地における事業運営上、とくに懸念している近年の「外部環境リスク」には、次のようなものがあります。

ミャンマーは、熱帯・亜熱帯といったモンスーン気候に属しており、サイクロンや洪水、集中豪雨などが発生する頻度が高く、過去には、こ

中小企業 海外展開のツボ

れらの自然災害により甚大な被害に遭っています。

またタイ国境付近では、マグニチュード 6.0以上の地震がたびたび発生し、ミャンマー第2の都市マンダレーでも建物が一部倒壊するなど、経済活動が一時停滞したこともあります。

政治・経済の面では、法制度の未整備がビジネスに与える影響は大き

ミャンマー、洪水などリスク

SOMPOリスクアマネジメント 執行役員 原 敬徳氏
ERM事業部長 首席コンサルタント

いといわれています。現在も頻繁に法令の制定や改定が行われています。たとえば、2015年9月には新たに法定最低賃金が導入され全国一律で月額3600円（約 300円）と決められたことから、人件費の上昇にもつながっています。

また、インフラの面では、電気や水道の供給停止が挙げられます。計画的な工事など行政からの指示や、

原因不明の突発的な供給停止など、原因はさまざまです。

このほか、物価や金利の上昇、資金調達や海外送金の難しさ、競合他社参入による市場競争の激化なども挙げられます。

日本を含む外資への市場開放が進むなか、現地の中小企業にとっては、まだまだ多くのリスクが存在しています。

中小企業にとって想定される
ミャンマーの主な外部環境リスク

- サイクロン、集中豪雨、洪水、地震など
- 政治・経済・社会リスク
- 法制度の未整備、許認可の遅延・煩雑さ
- 人件費の上昇、インフラの停止、物価・金利の上昇
- 資金調達・海外送金難、市場競争の激化など

2017年6月9日
日経産業新聞